

ぎふ政治塾 第2回講座レポート

塾生番号 032 近藤 秀一

【第1部】

藤原本巣市長の講演を拝聴させていただき、最初に学んだことは、国政は議院内閣制であり、地方自治体は首長と議会との二元代表制の関係であるということでした。

従って、地方自治体の行政を進めていくためには最も重要なことは、首長は様々な政策を遂行していくためには議会への事前の根回しが必要であるということ学びました。

さらに首長としての日々の執務について具体的にうかがうことができ、大変貴重なことを学ばせていただきました。

まず仕事については、市職員の人には、自治体の職員同士という関係である前に、首長と市民の関係であるため、顔なじみではあっても、慎重に丁寧接しなければならぬ。顔を知らない市民にはなおさら、親切に丁寧に接することが大切であるということ学びました。

毎日の行動が日々選挙であるという思いで過ごしておられること。市民との付き合い方は、決して週刊誌的なニュースにならないように、清貧に暮らすべきであるということ学びました。

首長として重要なことの一つとして、職員の人材育成がある。職員は日々多忙な業務の中で体系だった統一性が失われやすくなる。そのため、地方自治全体に対して、体系だった勉強会を開催して、若い人材を育成することが重要であるということ、将来の地方自治を進めていくうえでは、市民協働が不可欠になってきていることも学びました。

最後に補助金は、交付金の名称が変わってきたが、その交付金を少しでも多く獲得する方法を教えていただきましたかと思いました。

。

【第2部】

上手前岐阜県副知事のご講演は、人口減少時代の地方の課題をととても明確に述べられていました。

岐阜の長期構想の検討ということで、教育に関しては県立高校の進路指導が本質を欠如したものになっているとし、高校はセレクションを提示していない現状を語られました。

公共交通機関に関しては、過疎の地にバスを走らせる必要がないとおっしゃっていたが、バス以外の交通手段を迅速に確立しなければならないと考えま

す。

市町村、県の二重構造の自治体は必要かというテーマでは、本質な考え方として必要性がないとおっしゃっていましたが、私もそのように考えています。将来に向けて、可能な限り自治体をスリム化していく方向に進むべきであるとおっしゃいましたが、今後5年から10年は、市町村合併は、ほとんど無いであろうとのことでした。

今後自治体はどうなるのかというテーマでありましたが、特に道州制については、現実的には少し無理があるようなお考えを示していらっしやいました。私も道州制については、参加する県単位において、状況が大変違うので、厳しいという感触を持っています。同時に国民から道州制について要望が出てもないため、まだ、その機運ではないと考えます。

今後の公務員の意識としては、公共施設は好況と民間が共同で運営するような考え方が必要であるとも学びました。岐阜県県庁内においても、給与計算是5年前から民間会社を内部に入れているが大きな問題はないとのことでした。行政のスリム化という意味では大切なことであると考えます。米国のジョージア州にサンディ・スプリングス市という市がありますが、自治体を民間が運営しているそうです。我が国においても、自治体の未来は積極的に民間活力を活用するところから開けるであろうと考えます